

雑賀崎・田野・和歌浦地区の景観まちづくりワークショップが スタートしました！！

和歌山市には、和歌山城、和歌浦・雑賀崎、加太・友ヶ島、紀の川など豊かな自然や歴史遺産があり、これらの景観の良さを共有、発信しながら、それらを守り、育てるとともに、さらに良い景観を創っていく取り組みを進めています。

とりわけ、雑賀崎・田野・和歌浦地区は、平成21年2～3月に実施したアンケート調査でも、お気に入りの景観の場所として、和歌山城周辺地区とあわせて圧倒的な支持を得ました。

そこで、この地区の景観まちづくりをどのように進めていくか、について話し合う景観まちづくりワークショップを開催することとしました。

今回のニュースでは、1月21日（土）に和歌の浦アートキューブで開催した第1回の模様をお知らせします。



ワークショップの趣旨の説明

はじめに、都市整備課の前田課長から、本ワークショップの趣旨の説明を行いました。

●市の景観づくりの取り組み

- ・和歌山市では、平成23年7月に「和歌山市景観条例」を制定、平成23年9月に「和歌山市景観計画」を策定し、良好な景観づくりを進めているところです。
- ・市を象徴する景観として市民の関心も高く、市の顔となる景観上重要な地区を景観計画における「景観重点地区」に指定し、積極的な景観づくりを進めていくこととしており、平成23年12月には「和歌山城周辺景観重点地区」を指定しました。

●景観重点地区の指定に向けて

- ・雑賀崎・田野・和歌浦地区は市民にとってもお気に入りの景観ですが、場所によっても景観の特徴・問題や住民の思いは様々、どうしていくかは異なると思います。
- ・そこで、景観の特徴をつかみ、地区を幾つかに区分して、それぞれの場所でどのような景観がふさわしいのか、そしてそのために何をしていくべきか、を話し合いたいと思います。
- ・ワークショップの話し合いを踏まえて、景観重点地区の指定をめざしたいと考えています。

●景観まちづくりを話し合う場づくり

- ・景観重点地区を指定したとしても、景観を守り創っていくためには、継続した話し合いが必要です。市として、このワークショップをきっかけに、皆さんと市とで継続して地区の景観まちづくりを話し合う場ができればと考えています。

ミニ講演「雑賀崎・田野・和歌浦地区の景観まちづくりに向けて」

大阪府立大学大学院准教授 下村 泰彦 先生

次に、ワークショップの全体コーディネーターを務めていただく下村 泰彦先生から、ワークショップのはじまりにあたってミニ講演をいただきました。

●はじめに

- ・和歌山市は、山と海の歴史ある自然景観に恵まれたまちです。同じように山と海を持った、神戸や横浜と比べても、山が海に近い。
- ・とりわけこの雑賀崎・田野・和歌浦では、山から見た海や干潟の眺望、逆に海から見える山の稜線、また漁村の風景など非常に特徴的な景観を持っています。このような景観をどの様に維持していくか、考えていけないのではと思っています。



●なぜ景観を保全する必要があるのか

- ・例えば今の街並みの中に、突然大きな建物が建つかも知れない。ピンク色の壁の建物が建つかも知れない。そうすると今までの景観はそれだけで壊されてしまいます。
- ・どうすれば、現在の歴史ある自然の景観を守っていけるのか、どのような建物なら適しているのか、どこから見た景観を大切にしていくのか、皆さんが共感できるルールづくりが必要となっています。
- ・どの範囲を景観重点地区にするか、その地区でどのようなルールをつくるか、それにはやはり、地域にお住まいの方の意見が重要になってきます。このワークショップで、そのようなことがお伺いできればと思います。

●息の長い景観まちづくりの取り組みを

- ・大切なのは、「景観づくり」ではなく、「景観まちづくり」です。歴史・風土、伝統・文化、人々の暮らし、技術や制度これらのものが、一体となって見えてくるのが「景観」です。「景観まちづくり」というのは、まちの景観を維持・継承・管理するための様々な活動のことです。景観の魅力を残すための取り組み、清掃や美化の地道な活動も大切な「景観まちづくり」です。
- ・景観まちづくりには、継続した話し合い、取り組みが必要となってきます。
- ・生駒市では、市民と行政の協働による「生駒市緑の市民委員会」を設置しています。学識経験者、市内のボランティア、市民で構成されており、生垣助成制度、樹木地バンク制度、市民の森事業、花と緑のまちづくりコンテストなど、多様な取り組みを市民と行政が協働で運営し、積極的にまちづくりに関われるような体制を築いています。ここでもそのような取り組みが出来ればと思います。

ワークショップ

その後、参加者が4つの班に分かれて、自己紹介と、地区の景観の良いところ、気になるところや、ワークショップに期待することを出し合いました。

A 班：大道さん、池田さん、山野さん、松川さん、中口さん、堀畑さん、青山さん、西山さん

【好きな景観】

- 海の景観
和歌の浦は、海を眺めるのも、海から眺められるのも美しい/青石海岸の自然景観/田野の舟つき場の風景/和歌浦の海岸線の風景/旧正月の大漁旗の風景/奠供山からの眺望/妹背山頂上からの風景
- 雑賀崎のまちなみ
県道・浪早崎から見た雑賀崎の風景（S25 景観地 100 選 1 位の景観）
- 雑賀崎の灯台から見た紀伊水道/和歌浦湾や市内眺望



【問題点】

- 捨てられていくゴミ対策（埋立地に捨てられる地区外からのゴミ/釣り客がゴミを捨てていく(マナーの問題)/和歌浦の浜のゴミ)
- 緑・自然の少ないところ（工場地帯周辺など）をなんとかしたい
- 駐車場をもっと活用するための策を考える必要がある
- 廃屋をなんとかするべき
- 遊歩道で歩きにくい所があるので整備してほしい
- 奠供山へ登るルートが分かりにくいので、より分かりやすい表示を

【ワークショップへの期待】

- よりよい和歌浦の景観を
きれいな街並みが出来れば良い/いつでも子どもを連れていける景観
- 均整のとれた町(村)づくり
観光で地域がうるおうように/地区の静かな暮らしも守りたい/この地区の景観を守って行くと同時に景観を利用した他府県の人を呼び込む努力（和歌浦を「お散歩しませんか」イベントなど）
- 町内、犬猫のフン対策をするなど、生活環境を良くしたい
- 何かにつながっていく話し合いにしたい/話すだけで終わりたくない

B 班：松井さん、土山さん、松本さん、佐野さん、保井さん、小倉さん、藤本さん、前田さん

【良い点】

- 海岸美・海への眺め
美しい海が眼前に広がる/海岸線/海に沈む夕日/片男波・県道から眺めた風景、マリーナシティ方面から見る和歌浦の景色が素晴らしい
- 地域内に数多くある〇〇山（ビュースポット）
高津子山、妹背山など適度な高さの〇〇山というのが多く、そこから見る和歌浦の景色が良い
- その他
船が接岸しやすいヨットハーバーがあれば。



【問題点】

- 廃業した旅館が放置されていることで景観が損なわれている
- ゴミ・マナーの問題
県道の脇に捨てられた粗大ゴミ/片男波・旅館…街のゴミなど
- 景勝地であるにも関わらずアクセス性が悪い
JR 和歌山駅、南海和歌山市駅からも遠くバス利用も不便/アクセス性の悪さが人が集まりにくい状況を生み出しているのではないか
- ゆっくり風景を楽しむ場所がない
ドライブをしてもちょっと車を停めて風景を楽しむ場所・休む場所がない
- 地区でのルールづくり住宅構成街作り

【ワークショップへの期待】

- 市民住民意識の共有化
地域の人々が皆で共有できる景観まちづくりが出来れば/住民間に共通意識を作ることができる場づくり/このような出会いから参加者の景観への意見を聞きたい
- 地域が有する歴史や文化の継承を図っていきたい
- 一定のルールづくり（規制・誘導）による景観保全につなげたい
- もっと人が集まる場所にしていきたい（例えば、かつて結婚式と言えば和歌浦と言われたように）

C 班：林さん、池田さん、宮下さん、西川さん、赤土さん、藪さん、小泉さん、中野さん

【良い点】

- 眺望が良い
山からの景色が良い／普段海から山を見ているが山の稜線がきれいだと思う／雑賀崎の街並みがアマルフィのようで特徴的／干潟・海岸など自然景観はすでに十分に思う
- 東照宮や番所庭園など文化的、歴史的な場所がある
- 自分達で出来る範囲の整備や掃除はやってきている
- 観光の人は今でも来る



【問題点】

- 設備の維持管理の問題
市がベンチを設置してくれているが汚れて座れない／せっかく市が街灯・トイレを設置してくれても維持管理はしてくれず、結局地域の負担になる
- 廃墟の問題
今にも倒れそうな建物がある／新しく建つものをどうするかより、廃墟の対応が急務／景観以前の問題、今の建物をどうするか
- 過疎化の問題
- 観光客のマナー（干潟で水上バイクに乗る）が悪い
- マリーナシティができて、ノリが育たなくなった
- 市内の川(市町川)の臭いが気になる
- 規制をかけるとその範囲内と範囲外の差がはげしくなる

- 観光都市なのに、行政の広報や道路の案内標識の仕方が悪い
- 法律、条例が出来ても今まで建設的な話しができていない
廃墟を撤去できる県の景観条例が出来てもそのことを住民は知らない／行政に何度も言っているが、対応してくれない

【ワークショップへの期待】

- 景観をだれが決めるのか、考えていきたい
- 昔の和歌浦を戻したい
- 地区が連携することを期待する
- 行政主導ではダメ

D 班：唐門さん、中筋さん、中口さん、松本さん、中村さん、西本さん、西口さん、尼岡さん

【良い点】

- 眺望が良い
雑賀崎灯台からの景観／浪早崎よりの夕日、家の密集した風景（欠点でもあるが）／網代浜から見る「蓬莱岩」（遊歩道から見るもよい）／海辺・マリナーシティの見える景色／対岸の長峰山脈の山なみ
- 不老橋など、昔から守られた歴史の景観がある
- 海と山の調和が図られた景観が美しい
田野・雑賀崎の山道・海岸線の曲線美／健康づくりに関心のあるシニア層などにもアピール
- 干潟がある
希少な生き物がいる／水質も悪くない／全国的にもこれだけの干潟があるところは珍しい



【問題点】

- 廃業した旅館や管理されていない家屋、廃船が気になる
- マナーが悪く干潟の環境が悪くなっている（ジェットスキーで通行するなど汚れる浜の使い方をしている）ので、安全のルールづくりなども考えるべき
- 対岸には海南の煙突や風力発電施設があり、市をまたいで考えていくべき
- 自然の砂浜が残っておらず、水軒浜も埋め立てられた

【ワークショップへの期待】

- 一つでもよいから実際の行動（活動）につなげたい
- 古代から各時代の先人達が守っていた和歌の浦の景観を次世代に伝えたい
- 各地区の景観の方向性が出ればよい
- 景観が少しでも良くなっていけば、良い所ができれば
- 町が美しくてきれいになれば
- 景観に対して理解を深めたい

発表

各グループのメンバーが、話し合った内容を発表しました。

最後に、下村先生からコメントがありました。

- 各グループとも「海」「山」がひとつのキーワードとして挙がっていました。この海と山との程よい距離感が和歌浦の魅力なのでしょう。
- また、みなさんが「地域の（産業）活性化」を期待しており、その気運を地元でどう盛り上げていくかが重要です。
- すべてが景観により解決されるわけではないが、景観を切り口に何が出来るかを考えていてもらいたいと思います。
- 今後、アクションについて考えていく際には、「今よりも悪くしないために何が必要か/出来るか」「昔の風景を取り戻すために何が必要か/出来るか」といった視点で考えて貰えればヒントが見つかるかもしれないと思います。



なお、今回のワークショップの様子は、朝日新聞、読売新聞、わかやま新報にも取り上げられました！！

次回は、2月26日（日）を予定しており、和歌浦地区の資源・問題点を話し合う予定としています。次回もよろしくお願いいたします。

●事務局・問い合わせ先

和歌山市 まちづくり局 都市整備部 都市整備課

〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地

Tel : 073-435-1082 Fax : 073-435-1367 E-mail : toshiseibi@city.wakayama.lg.jp